

## 第2回岩手・宮城内陸地震に係る山地災害対策検討会 議事要旨

- 1 開催日時：平成20年7月19日（土）10：00～12：00（検討会）
- 2 開催場所：ふるさとプラザ（大崎市）（検討会）  
荒砥沢ダム上流地すべり地内（分科会現地調査）
- 3 議事
  - ・一迫川流域の荒廃状況と今後の課題
- 4 主な検討結果・報告及び委員の発言内容
  - ・一迫川上流域（一迫川と川原小屋沢の合流点から上流）の不安定土砂は、溪床不安定土砂量が約480万m<sup>3</sup>、山腹崩壊残存土砂量が約1,120万m<sup>3</sup>、計約1,600万m<sup>3</sup>で膨大な土砂量（東京ドーム13杯分）。
  - ・流域の崩壊の特徴として、地質・地形と対応しており、斜面下部に柔らかく軽い岩（軽石凝灰岩等）、斜面上部に固くて重い岩（溶結凝灰岩等）のある箇所が多く発生。斜面上部の岩を巻き込んで大規模な崩壊に発展したと想定。
  - ・大規模な河道閉塞2箇所（湯ノ倉地区、湯浜地区）以外にも、3箇所の河道閉塞が確認されているが、河道閉塞の基礎データからすると、通常の降雨では決壊するおそれは少ない。
  - ・膨大な不安定土砂の全てを安定化させる対策には、資材搬入や施工期間等の制約から1～2年での実施は困難であり、下流への影響を踏まえ、効果的な対策から優先順位をもって対応することが必要ではないか。
  - ・まず、下流に直接被害をおよぼすおそれが高いと考えられる崩壊土砂量が多い箇所（川原小屋沢、相ノ沢等）において、崩壊土砂を床固工群等で安定化させることを優先すべきではないか。
  - ・施工に当たっては、作業道路の確保を優先させ、施工期間を踏まえ、効率的に施工できる工法を選定することが必要ではないか。また、二次災害の危険性が高いため、無人化施工等により工事中の安全面での対策を十分講じることが必要ではないか。
  - ・引き続き、不安定土砂の流出状況や崩壊・地すべりの拡大のおそれがないか調査・観測を進めるとともに、応急対策や工事の進捗状況を踏まえ、関係機関と連携した警戒避難システムを検討することが必要ではないか。

以 上